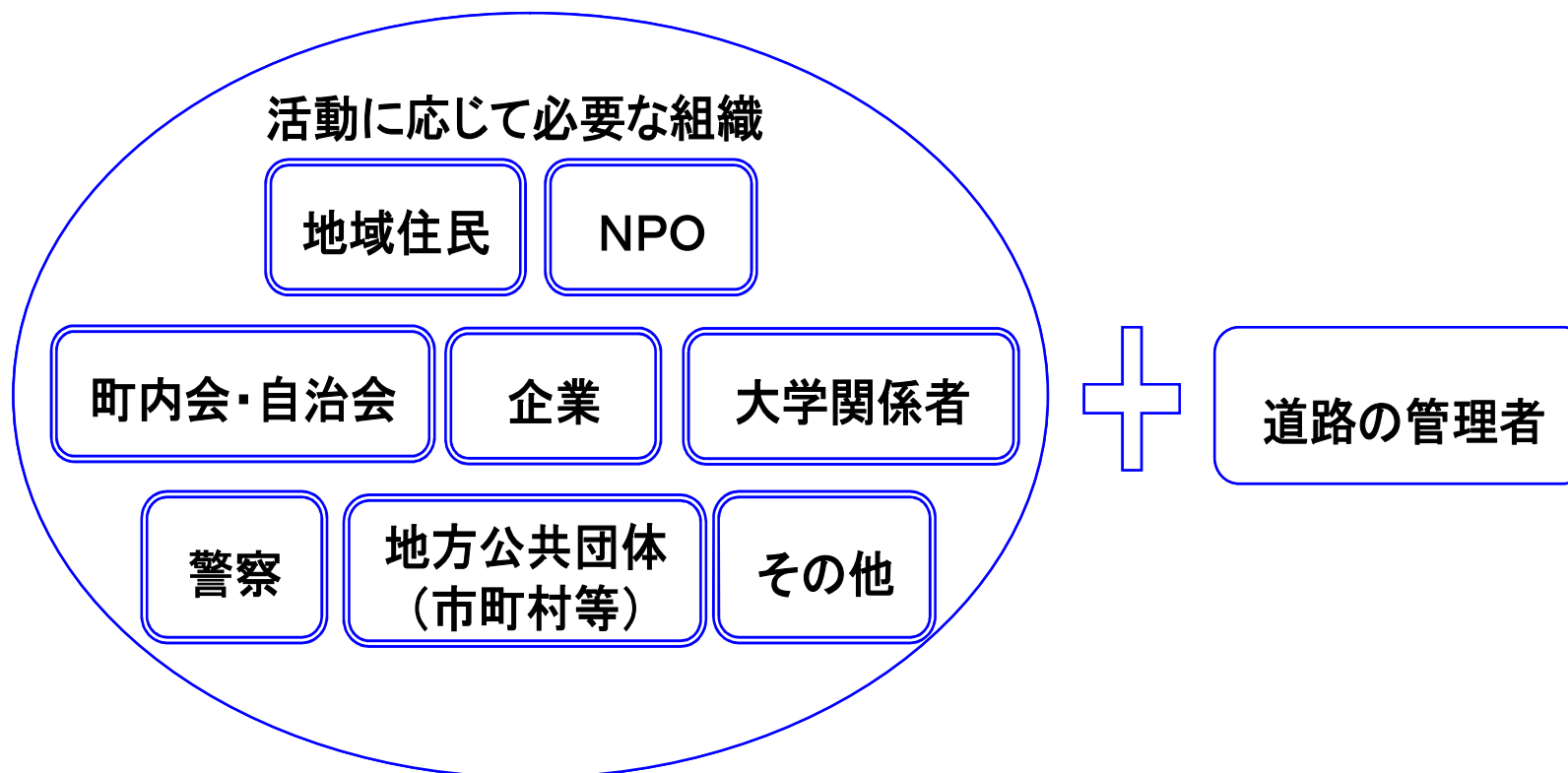


構成団体の活動にみる特徴

風景街道の基本的な組織構成

- ・風景街道のルート毎に、「活動に応じて必要な組織（地域住民、NPO、町内会・自治会、企業、大学関係者、警察、市町村等の地方公共団体）」と「道路の管理者」で活動組織（パートナーシップという）を作り、ルートの活動・運営を行っている。



▲風景街道（各ルート）の基本的な組織構成（パートナーシップ）

※本資料では、パートナーシップを構成する団体を、「構成団体」と定義する。

風景街道パートナーシップの活動状況の把握

- ・ 風景街道パートナーシップの活動状況の把握を目的に、平成28年度に「日本風景街道パートナーシップアンケート」を実施。（調査時点に登録済みの138ルートを対象）
- ・ これらを用いて、日本風景街道パートナーシップの現状把握や、今後のあり方等の検討のための基礎資料として、以下の項目について整理。

<確認項目>

1. 日本風景街道の現状

登録ルートの延長や、パートナーシップの構成団体数、
中心的な役割を担う人の年齢層、主体的に活動している人数、
組織の成熟度や今後の活動意向などについて、日本風景街道の現状を整理

2. 地方ブロック毎の特徴

全国10の地方ブロック(北海道・東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州・沖縄)
毎に特徴を整理

3. 「組織の成熟度」「今後の活動意向」に影響する特徴

「組織の成熟度」「今後の活動意向」に影響する風景街道パートナーシップの特徴を整理

<確認項目>

1. 日本風景街道の現状

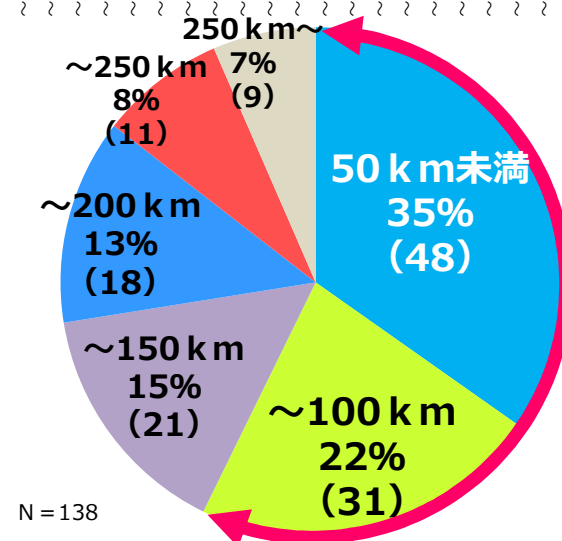
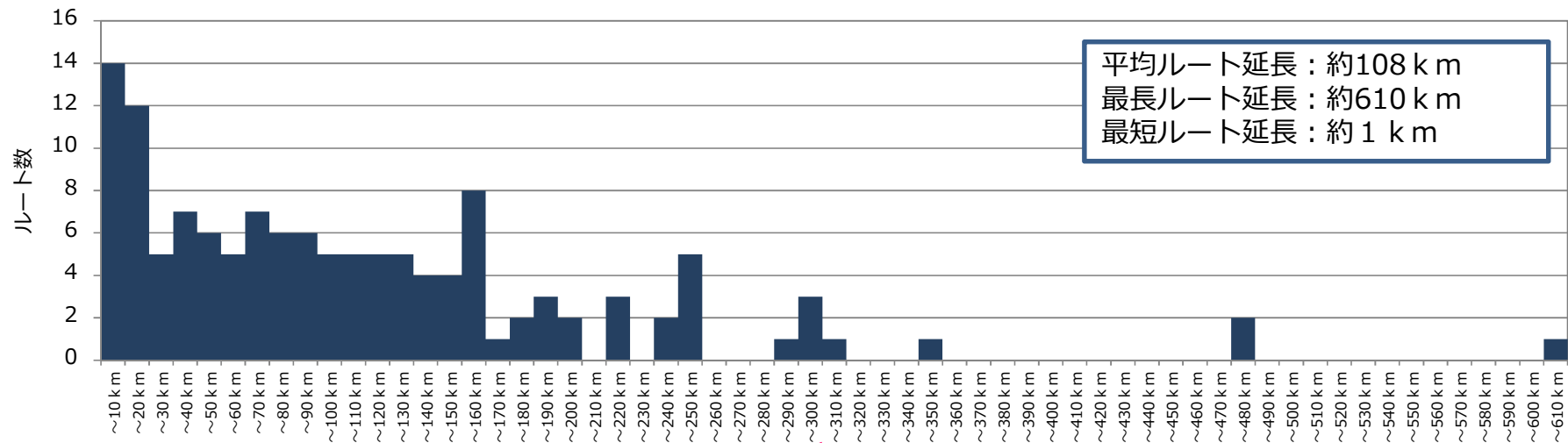
2. 地方ブロック毎の特徴

3. 「組織の成熟度」「今後の活動意向」に与える影響

1. 日本風景街道の現状

<基礎条件(ルート延長)>

- ・ ルート延長は、平均約108 kmとなっており、最も長いルートは600 km超、最も短いルートは約1 kmと、ルートにより延長は異なる。
- ・ 「100 km以下」の割合が半数以上。「200 km以上」のルートも15%存在。



100 km以下の割合が半数以上

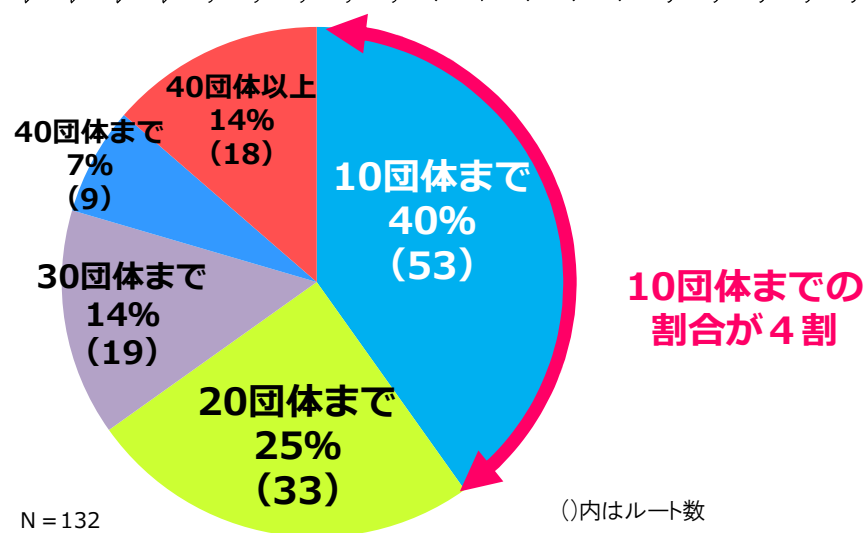
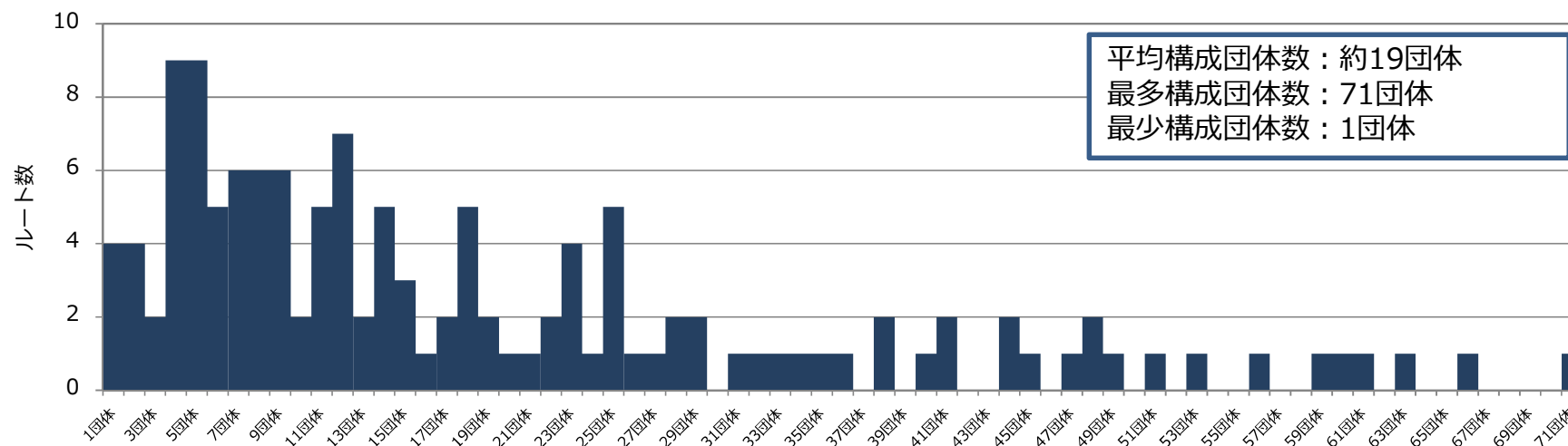
()内はルート数

データ：各ルート概要を参考に電子地図上で距離を計測

1. 日本風景街道の現状

<基礎条件(構成団体数)>

- ・ 構成団体数は、平均約19団体となっており、最も多いのは71団体、最も少ないのは1団体と、ルートにより構成団体数は異なる。
- ・ 「10団体まで」の割合が約40%と最も多い。「40団体以上」の大規模なルートも14%存在。



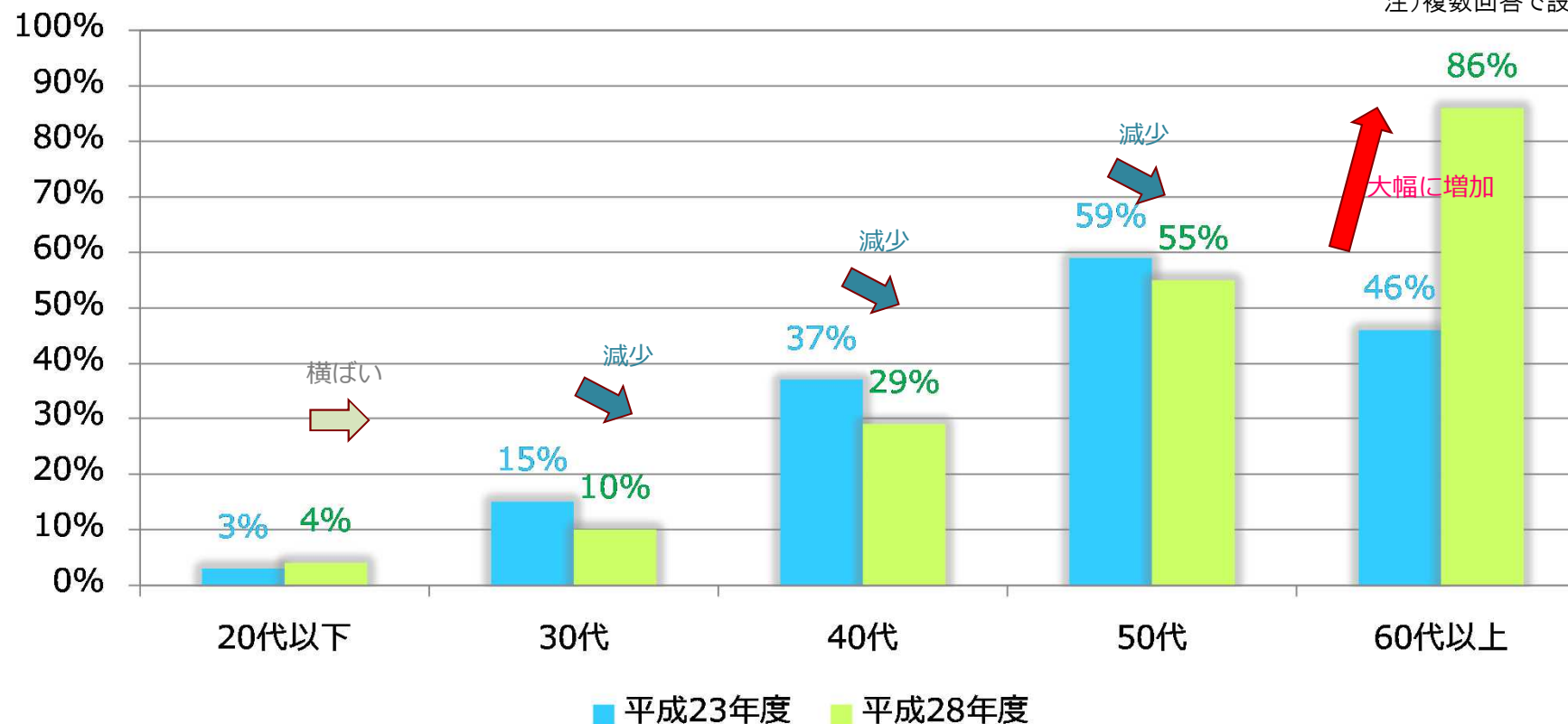
1. 日本風景街道の現状

<基礎条件(中心的な役割を担う人の年齢層)>

- ・ 中心的な役割を担う人(活動を牽引している人)の年齢層は、「60代以上」が約86%。(H28年度)
- ・ H23年度からH28年度までの5年間で、中心的な役割を担う人の年齢層が、「50代以下」は概ね減少傾向、「60代以上」は大幅に増加。

Q：中心的な役割を担う人の年齢層を教えてください。

注)複数回答で設問



データ:H23日本風景街道パートナーシップアンケート
H28日本風景街道パートナーシップアンケート

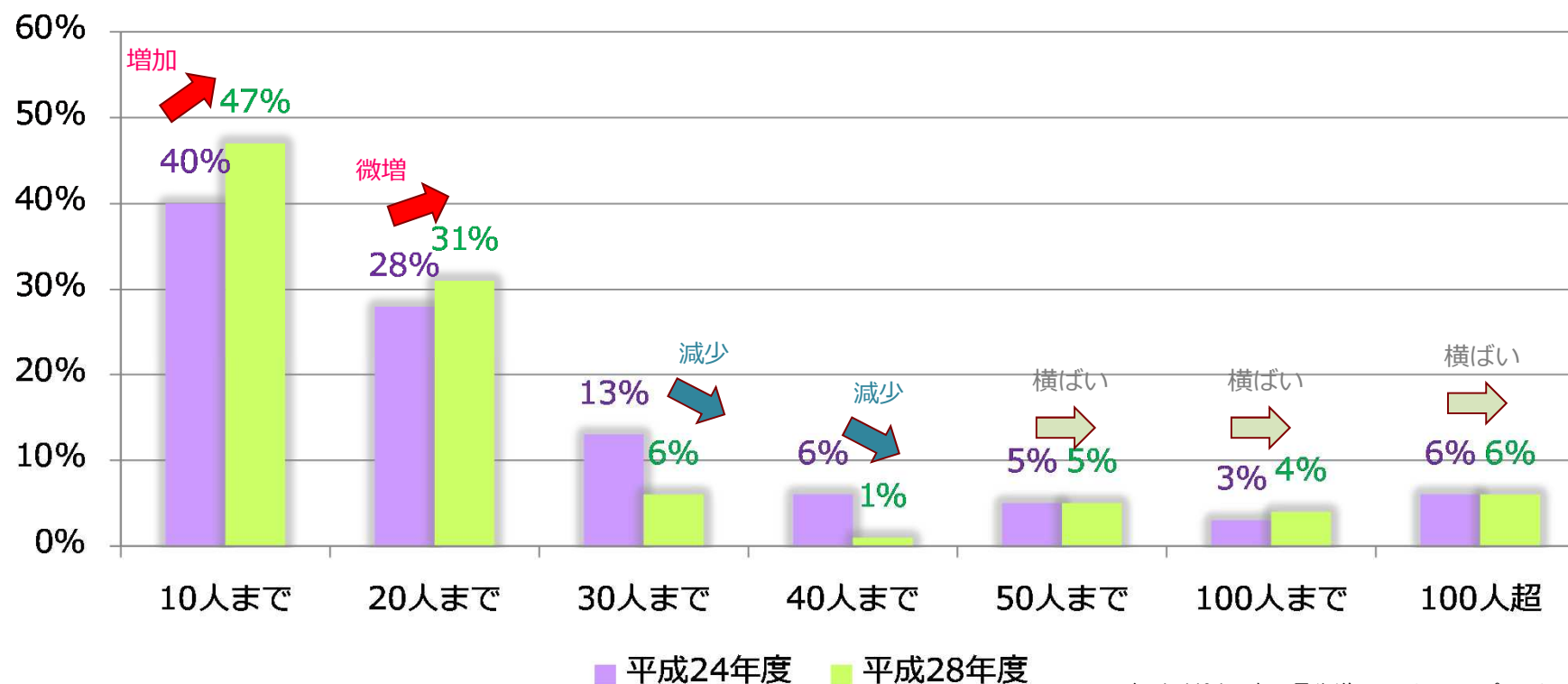
1. 日本風景街道の現状

<基礎条件(主体的に活動している人数)>

- ・ 主体的に活動している人数（頻繁に活動に参加している人数）では、「10人まで」が最も多く約47%。（H28年度）
- ・ H24年度からH28年度までの4年間で、主体的に活動している人数が、「10人まで」や「20人まで」の割合が増加傾向。「30人まで」「40人まで」の割合が減少傾向。

Q：主体的に活動している人数を教えてください。

注)単数回答で設問



データ:H24日本風景街道パートナーシップアンケート
H28日本風景街道パートナーシップアンケート

※「主体的に活動している人数」は平成24年度から新たに追加された設問

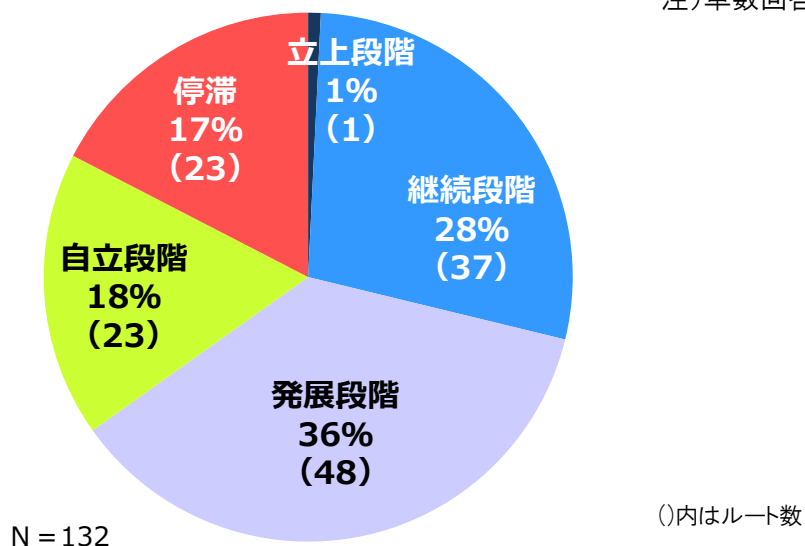
1. 日本風景街道の現状

<基本集計(組織の成熟度)>

- ・組織の成熟度では、発展段階（36%）、継続段階（28%）が多いものの、17%のルートが「停滞」していると回答。

Q：現在の組織の成熟度について、当てはまるものを教えてください。

注)単数回答



立上段階：事務所等の助言や支援を受けながら活動を行っている段階

継続段階：活動の継続化へ向けて努力している段階

発展段階：活動の幅、規模、種類などを広げ活動の質を高めようと努力している段階

自立段階：風景街道の活動主体として目指す姿の実現へ向けた取組を自力で考え実行できる段階

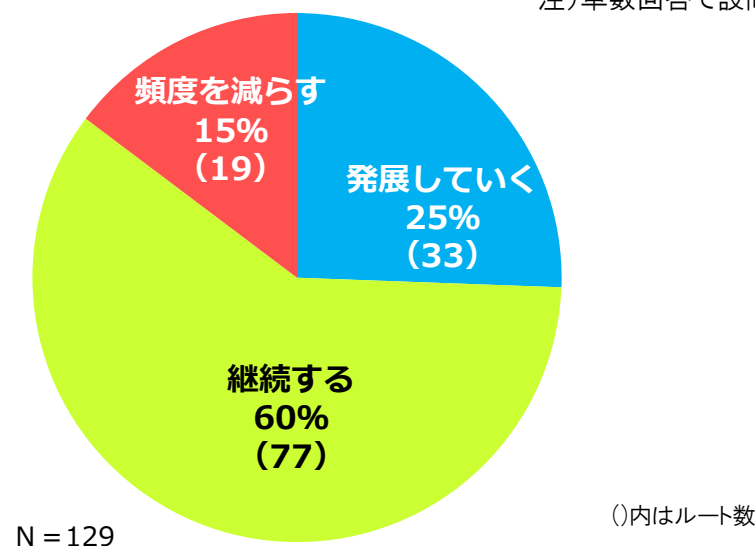
停滞：活動が停滞し今後の方向性が不明な段階

<基本集計(今後の活動意向)>

- ・今後の活動意向では、活動を「継続する」ルートが60%と最も多いものの、15%のルートが「頻度を減らす」と回答。

Q：日本風景街道の活動を今後どのように行っていく予定か教えてください。

注)単数回答で設問



発展していく：現在の活動に加え、より発展的な活動を行っていく（維持していく）予定

継続する：現在の活動を継続的にやっていく予定

頻度を減らす：人材不足等で活動の体制に課題があるため、活動頻度を軽減していく予定

1. 日本風景街道の現状

<基礎条件(組織の成熟度、今後の活動意向)>

- ・組織の成熟度が「停滞」であり、今後の活動意向が「頻度を減らす」と回答しているルートは、全体の12%（15ルート）存在。

N = 129

組織の成熟度

()内はルート数

		立上段階	継続段階	発展段階	自立段階	停滞
今後の活動意向	発展していく	1% (1)	8% (10)	12% (16)	5% (6)	0% (0)
	継続する	0% (0)	21% (27)	23% (30)	10% (13)	5% (7)
	頻度を減らす	0% (0)	0% (0)	1% (1)	2% (3)	12% (15)

データ：H28日本風景街道パートナーシップアンケート

1. 日本風景街道の現状

<まとめ>

1. 登録ルート of 延長は、600 km以上のルートから1 km程度のルートまで差がある。
2. 構成団体数は「10団体」までが最も多く、全体の40%。
3. 中心的な役割を担う人の年齢層は、「60代以上」が中心。（高齢者中心）
4. 主体的に活動している人数は、「10人まで」が最も多い。（少人数中心）
5. 現状を「停滞」と認識しているルートは17%存在。今後の活動の「頻度を減らす」意向を持つルートも15%存在。
6. 組織の成熟度が「停滞」であり、今後の活動意向が「頻度を減らす」と回答しているルートは12%存在。

<確認項目>

1. 日本風景街道の現状

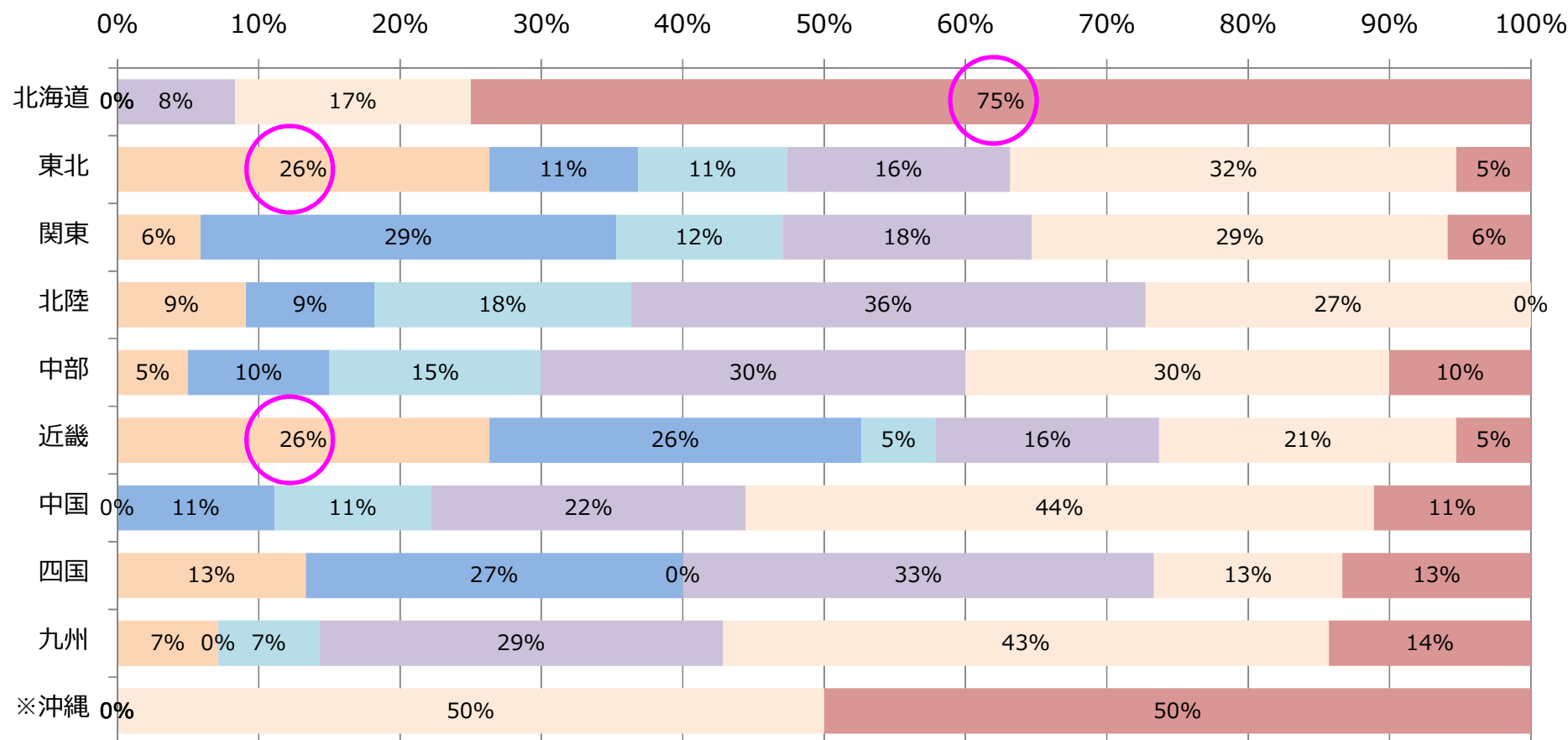
2. 地方ブロック毎の特徴

3. 「組織の成熟度」「今後の活動意向」に与える影響

2. 地方ブロック毎の特徴

<基礎条件(ルート延長)>

- ・ ブロック別にみると、北海道は200 km以上のルート延長を持つ割合が75%を超える。
- ・ 一方、東北や近畿では、10 km未満のルート延長が他のブロックに比べて多い。



※沖縄は2ルートとサンプルが少ないため参考

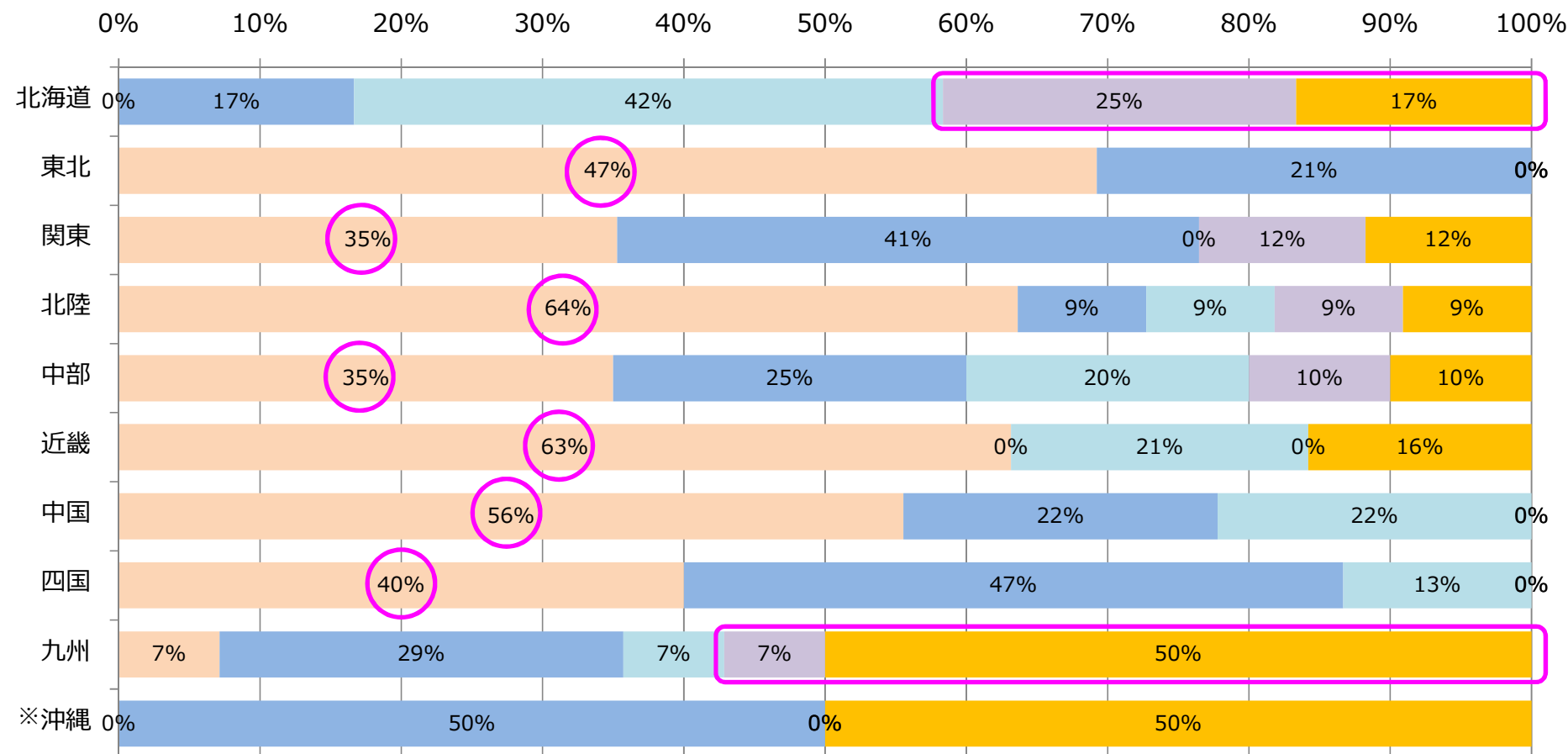
■ 10km未満
 ■ ~30km
 ■ ~50km
 ■ ~100km
 ■ ~200km
 ■ 200km以上

データ：各ルート概要を参考に電子地図上で距離を計測

2. 地方ブロック毎の特徴

<基礎条件(構成団体数)>

- ・北海道や九州は構成団体数が30団体以上で構成されているルートが多い。
- ・一方、その他の地域では構成団体数が10団体以下で構成されるルートが多い。



※沖縄は2ルートとサンプルが少ないため参考

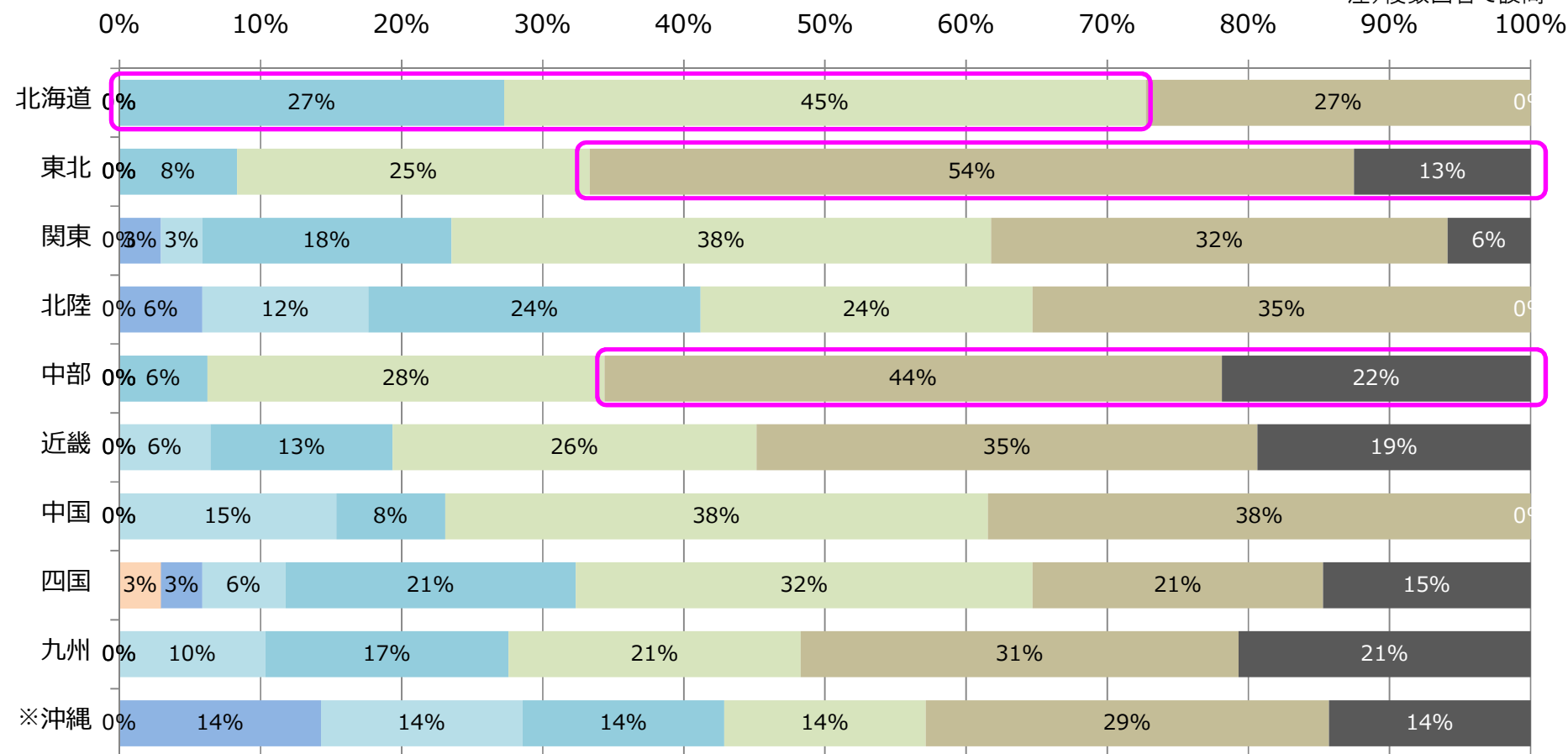
■ 10団体まで ■ 20団体まで ■ 30団体まで ■ 40団体まで ■ 40団体以上

2. 地方ブロック毎の特徴

＜中心的な役割を担う人の年齢層＞

- ・ 北海道は、70%以上で中心的な役割を担う人の年齢層が50代以下。（若年層が中心）
- ・ 一方、東北や中部では60代以上の割合が60%を超える。（高齢者層が中心）

注) 複数回答で設問



※沖縄は2ルートとサンプルが少ないため参考

10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

データ：H28日本風景街道パートナーシップアンケート

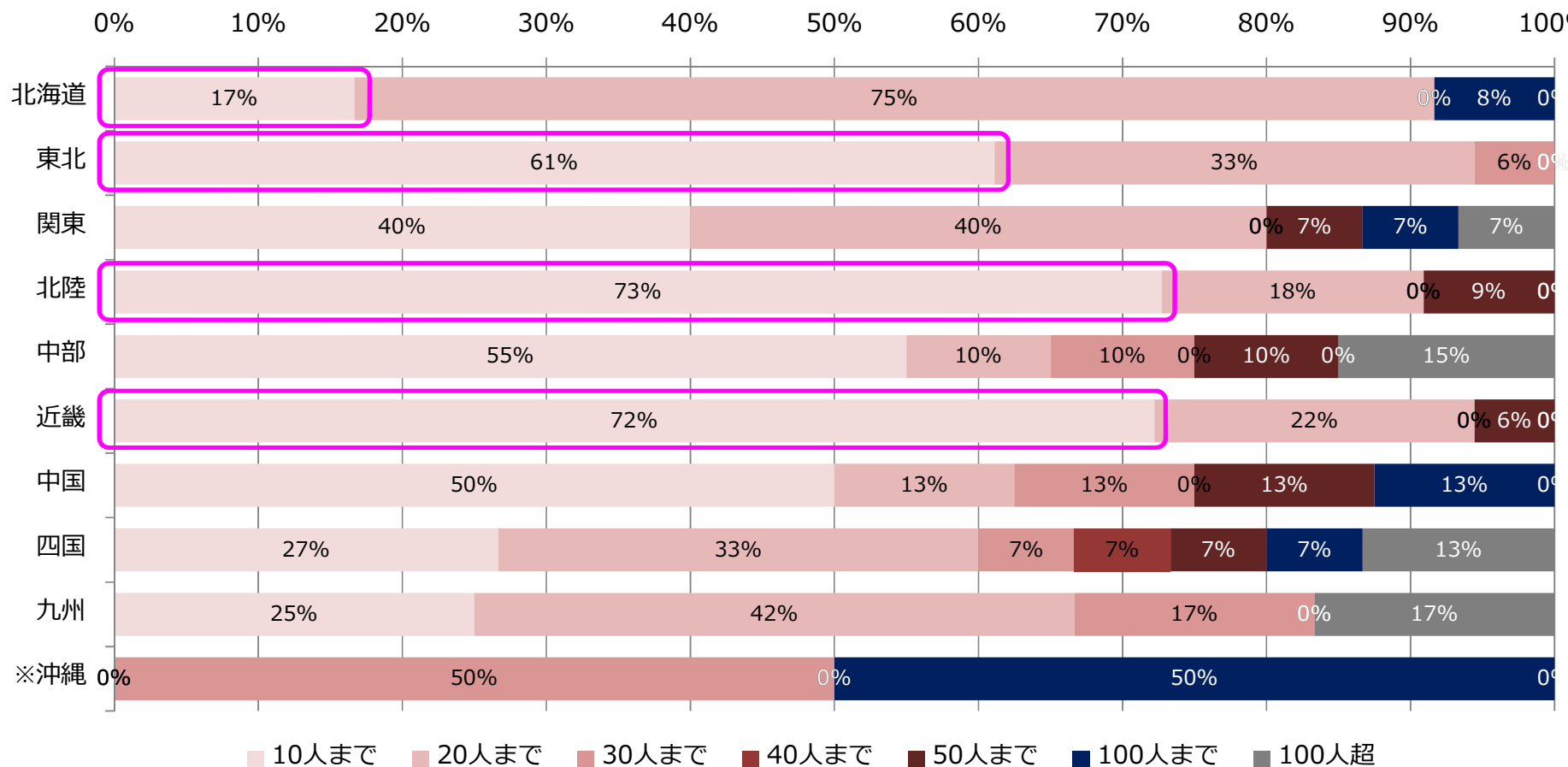
2. 地方ブロック毎の特徴

＜主体的に活動している人数＞

- ・ 北海道は、「10人まで」の少人数で活動しているルートが少ない。
- ・ 一方、東北、北陸、近畿では「10人まで」の少人数で活動しているルートが大半を占める。

N = 131

注) 単数回答で設問



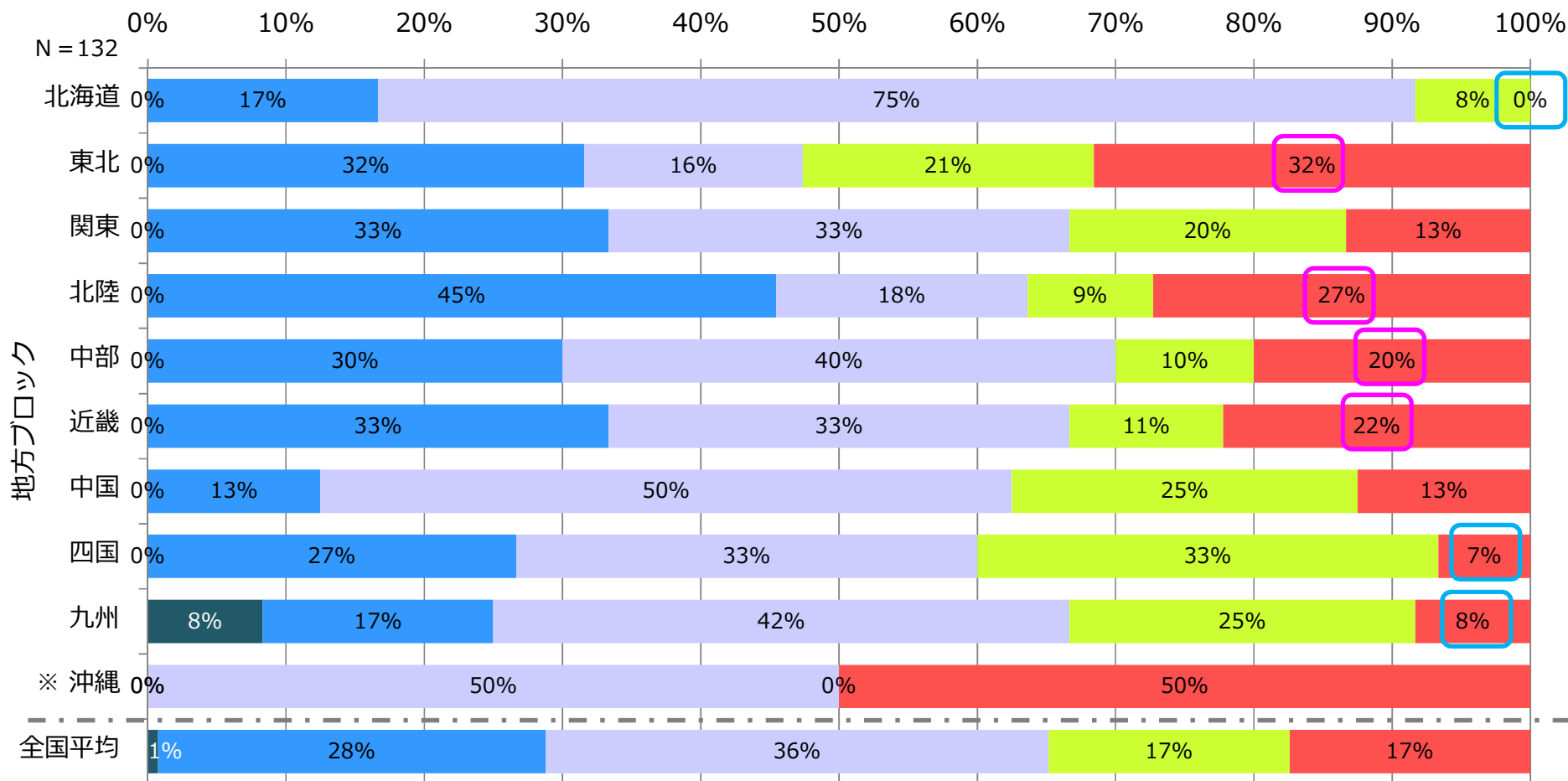
※沖縄は2ルートとサンプルが少ないため参考

データ：H28日本風景街道パートナーシップアンケート

2. 地方ブロック毎の特徴

<組織の成熟度>

- ・北海道は「停滞」が無く、九州、四国も「停滞」の割合が低い。
- ・一方、東北、北陸、中部、近畿は「停滞」の割合が全国平均に比べ高い。



※沖縄は2ルートとサンプルが少ないため参考

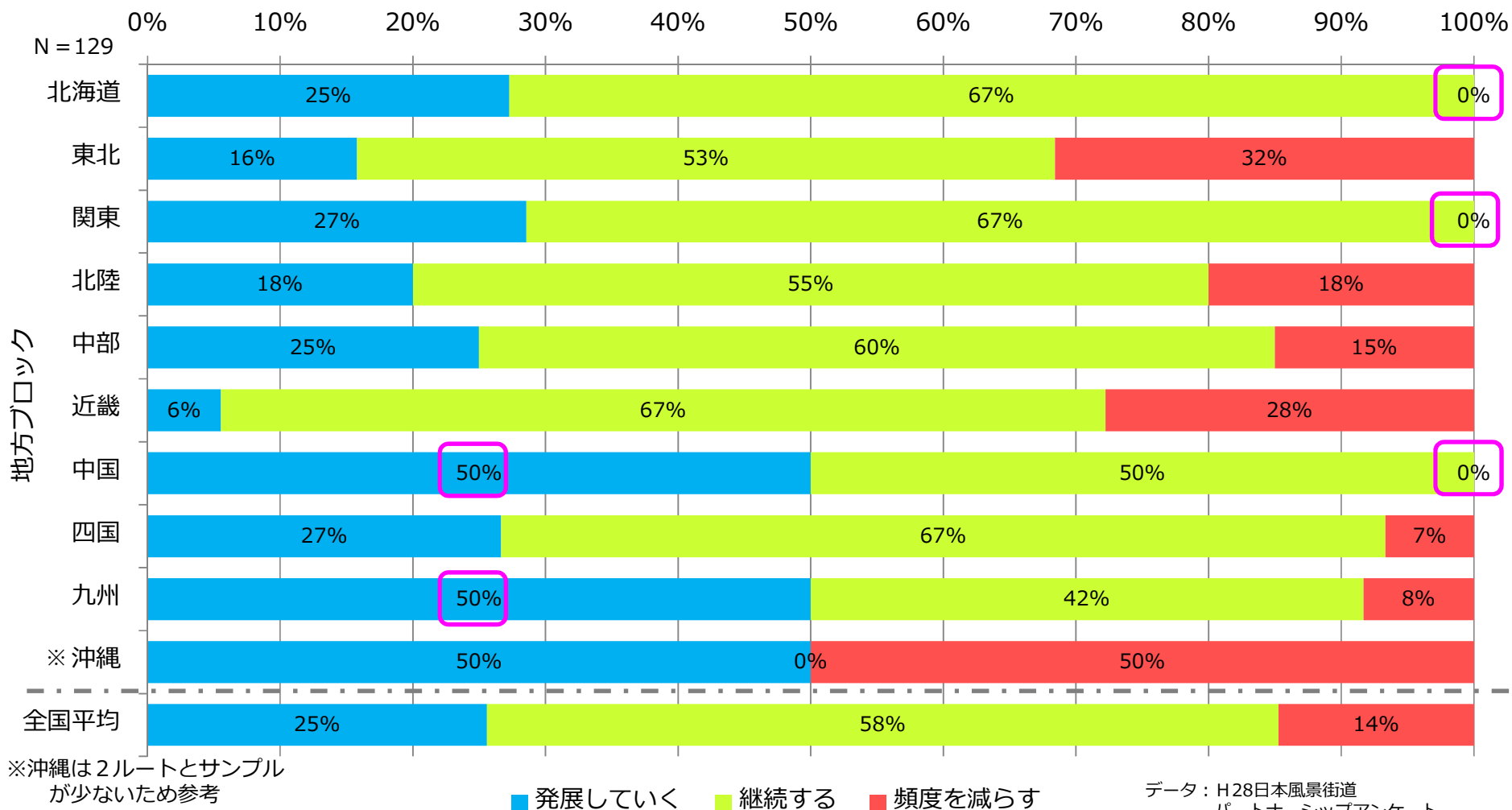
■ 立上段階 ■ 継続段階 ■ 発展段階 ■ 自立段階 ■ 停滞

データ：H28日本風景街道
パートナーシップアンケート

2. 地方ブロック毎の特徴

<今後の活動意向>

- ・ 中国、九州は「発展していく」の割合が50%となっている。
- ・ また、北海道、関東、中国では、「頻度を減らす」の回答が無かった。



2. 地方ブロック毎の特徴

■まとめ■

北海道	<ul style="list-style-type: none"> 登録ルート延長が長く、<u>構成団体数も多い</u>。 50代以下の<u>若年層が中心に活動</u>。 現状が「<u>停滞</u>」や今後の活動の「<u>頻度を減らす</u>」ルートが無い。
東北	<ul style="list-style-type: none"> 構成団体数が少なく、また、主体的に活動している人数も少ない傾向。 中心的な役割を担う人の年齢層が高く、高齢者が中心となり活動。 現状が「<u>停滞</u>」の割合が最も高く、今後の活動の「<u>頻度を減らす</u>」の割合も最も高い。
関東	<ul style="list-style-type: none"> 登録ルートの延長や、年齢層、構成団体の規模では平均的。 現状が「<u>停滞</u>」は約1割あるものの、<u>今後の活動の「頻度を減らす」</u>ルートが無い。
北陸	<ul style="list-style-type: none"> 構成団体数が少なく、主体的に活動している人数で「10人まで」の割合が最も高い。 現状が「<u>停滞</u>」の割合が東北に次ぎ<u>高い</u>。
中部	<ul style="list-style-type: none"> 中心的な役割を担う人の年齢層が、東北に次ぎ高い。 小人数（10人まで）で活動している割合が高い一方、100人超の<u>大人数で大規模に活動する団体も存在</u>。
近畿	<ul style="list-style-type: none"> 構成団体数が少なく、また、主体的に活動している人数も少ない傾向。 <u>今後の活動の「頻度を減らす」</u>割合が東北に次ぎ高く、「<u>発展していく</u>」割合が最も低い。
中国	<ul style="list-style-type: none"> 登録ルート延長10km以下が無く、比較的延長が長いルートが多い。 <u>主体的に活動している人数も多い</u>傾向にあり、「<u>発展していく</u>」割合が高い。
四国	<ul style="list-style-type: none"> <u>主体的に活動している人数が多い</u>傾向。 50代以下の<u>若年層が中心に活動</u>。 現状が「<u>停滞</u>」の割合が低い。
九州	<ul style="list-style-type: none"> 北海道に次いで、登録ルート延長が長く、<u>構成団体数も多い</u>。 中心的な役割を担う人の年齢層は高いが、<u>現状が「停滞」の割合が低く</u>、「<u>発展していく</u>」割合が高い。
沖縄	※ 2ルートのためコメントなし

<確認項目>

1. 日本風景街道の現状

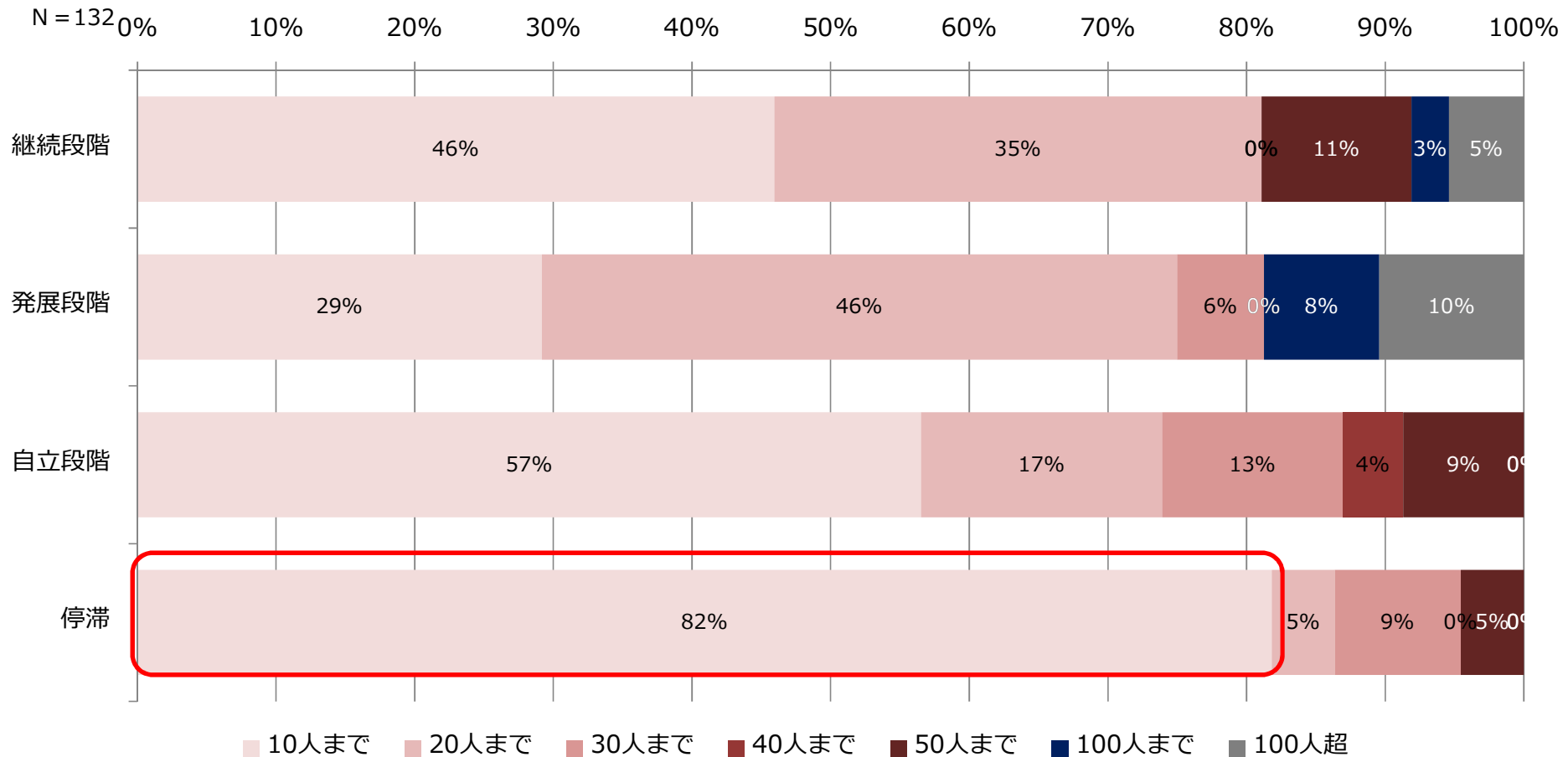
2. 地方ブロック毎の特徴

3. 「組織の成熟度」「今後の活動意向」に影響する特徴

3. 「組織の成熟度」「今後の活動意向」に影響する特徴

<組織の成熟度×主体的に活動している人数>

- 主体的に活動している人数別では、「停滞」は「10人まで」の少人数で活動している割合が約8割であり、その他の成熟度に比べて顕著に高いことが確認される。



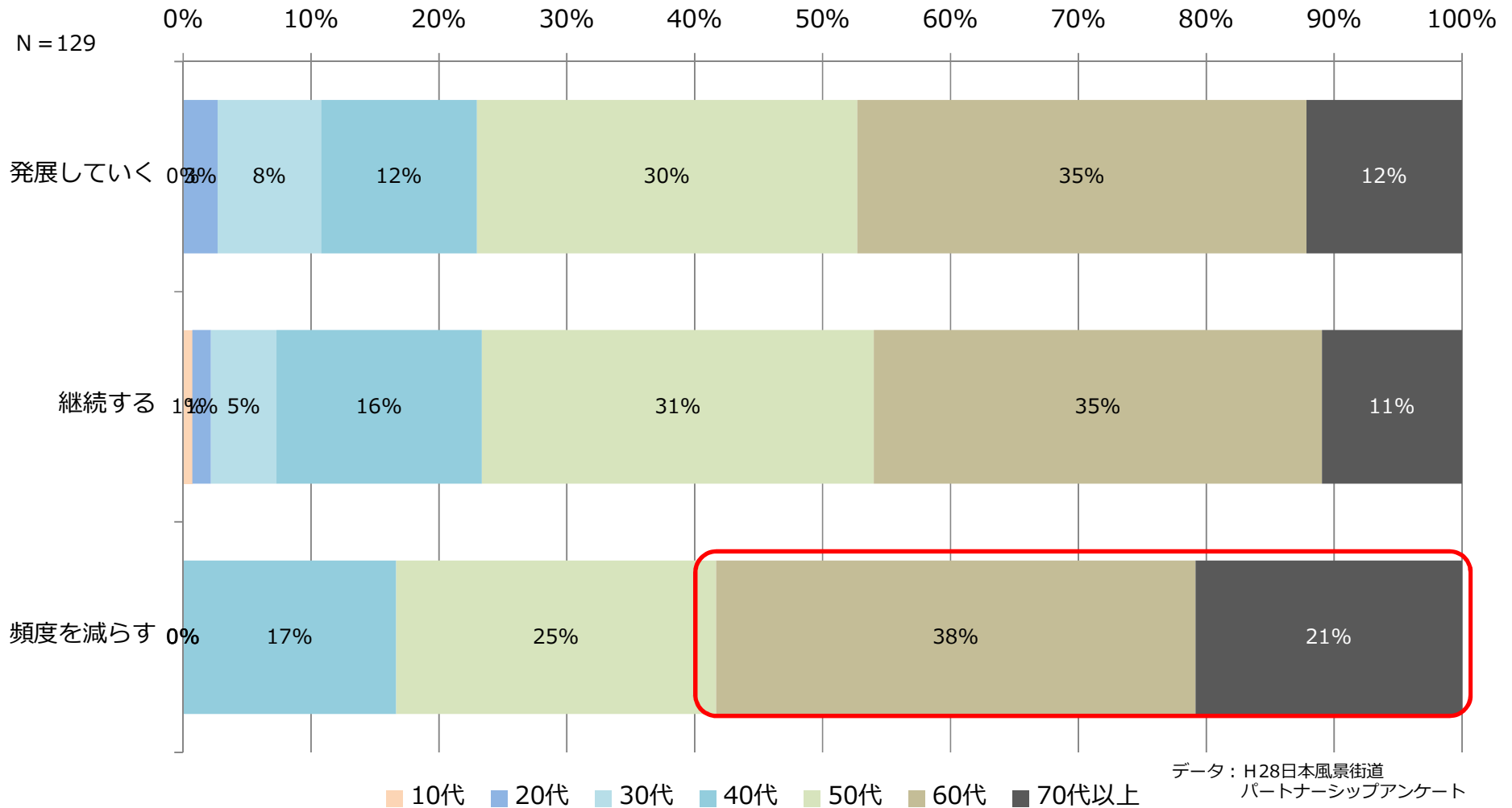
※立上段階の1ルートは除外

データ：H28日本風景街道
パートナーシップアンケート

3. 「組織の成熟度」「今後の活動意向」に影響する特徴

＜今後の活動意向×中心的な役割を担う人の年齢層＞

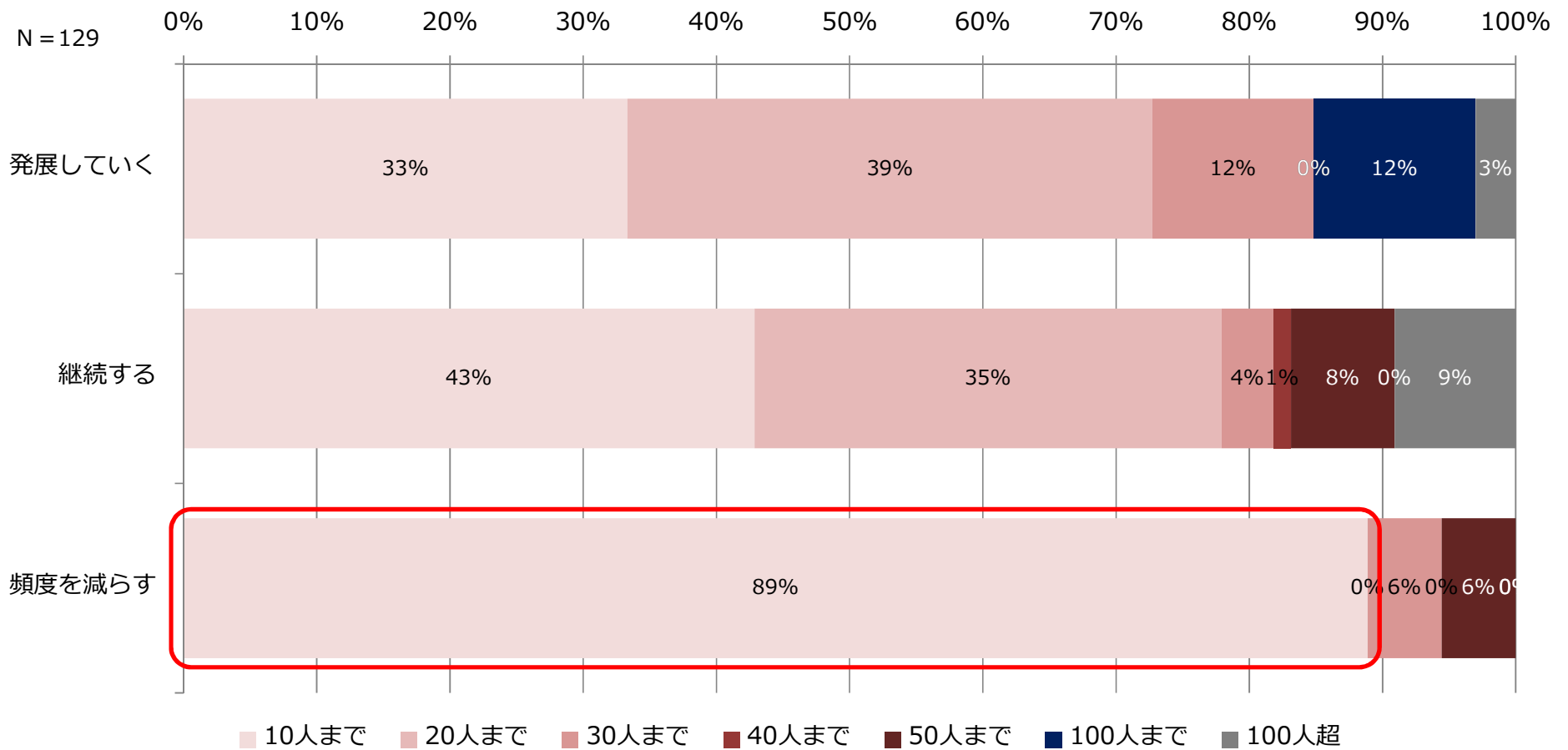
・ 中心的な役割を担う人の年齢層別では、「頻度を減らす」と回答したルートは、それ以外の意向を示したルートに比べ、「60代以上」の割合が高い。



3. 「組織の成熟度」「今後の活動意向」に影響する特徴

＜今後の活動意向×主体的に活動している人数＞

- ・主体的に活動している人数別では、「頻度を減らす」と回答したルートは、それ以外の意向を示したルートに比べ、「10人まで」と少人数で活動している人の割合が極めて高い。

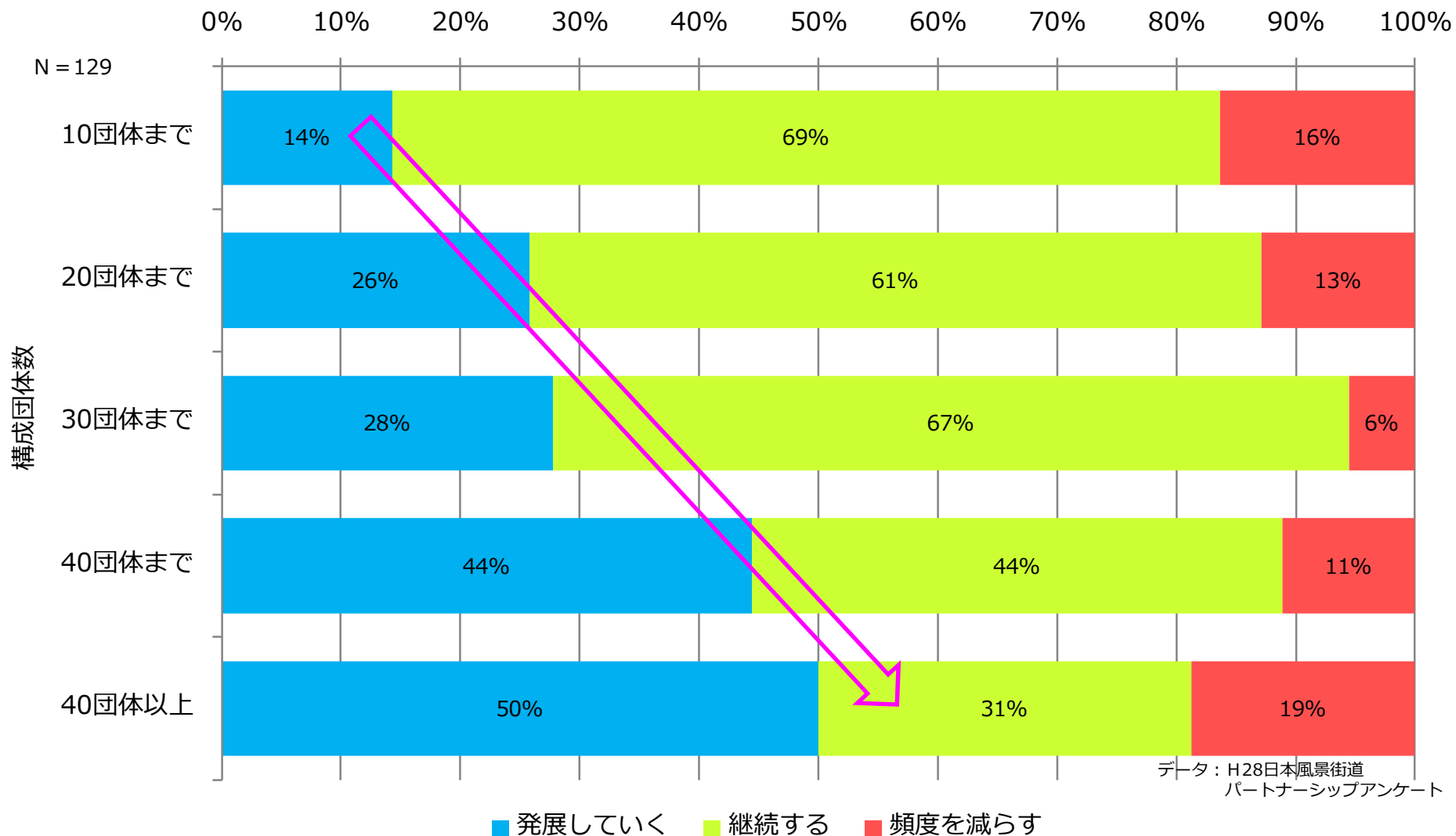


データ：H28日本風景街道
パートナーシップアンケート

3. 「組織の成熟度」「今後の活動意向」に与える影響 国土交通省

＜今後の活動意向×構成団体数＞

- ・ 構成団体数別の今後の活動意向では、団体数が多くなるに従い、「発展していく」と回答した割合が高くなっている。



3. 「組織の成熟度」「今後の活動意向」に影響する特徴

〈組織の成熟度・今後の活動意向 への影響〉

1. 現状が「停滞」と認識しているルートは、主体的に活動している人数が「10人まで」と少人数で活動しているルートに多くみられる。
2. 今後活動の「頻度を減らす」意向を持っているルートは、中心的な役割を担う人の“高齢者（60代以上）”の割合が高い。また、主体的に活動している人数が「10人まで」と少人数で活動しているルートに多くみられる。
3. 構成団体数が多いルートほど、今後の活動を「発展していく」と回答する割合が高い。

組織の成熟度の「停滞」を減らし、
今後の活動意向を「継続する」、「発展していく」
ルートを増やすため・・・

- ① 日本風景街道パートナーシップの組織体制や活動内容の
継続的な確認
- ② 日本風景街道パートナーシップの組織の活性化策の検討